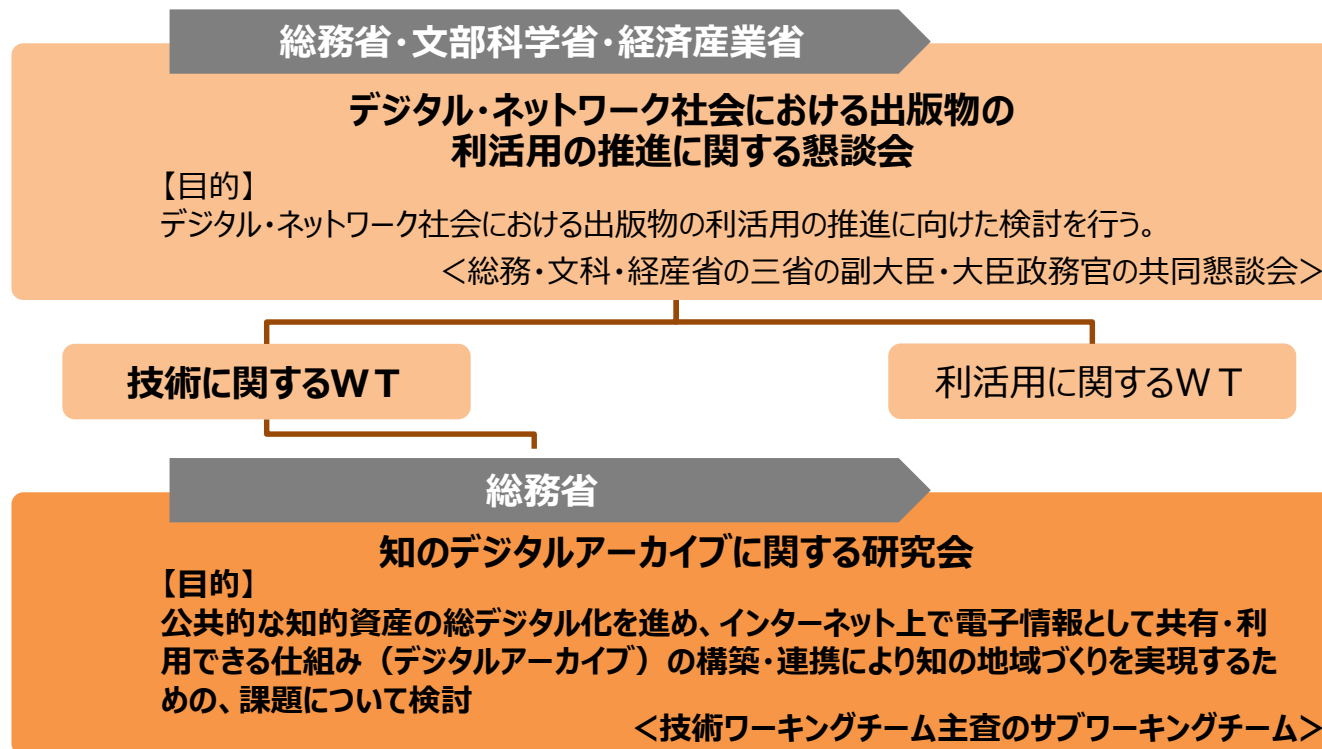


<背景・経緯>

- 総務省、文部科学省、経済産業省の副大臣・大臣政務官による共同懇談会として、「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」を開催（平成22年3月）。作家、出版社、新聞社、印刷会社、書店、通信事業者、メーカー等の関係者が広く集まり、デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に向けた検討を実施。平成22年6月に報告を取りまとめ。
- 当該報告も踏まえ、当該懇談会の「技術に関するWT」のサブWTとして「知のデジタルアーカイブに関する研究会」（座長：杉本重雄 筑波大学大学院教授）を開催（平成23年2月）。図書・出版物、公文書、美術品・博物館、歴史資料等公共的な知的資産の総デジタル化を進め、インターネット上で電子情報として共有・利用できる仕組み（デジタルアーカイブ）の構築・連携の推進に向けた検討を実施。平成24年3月に提言を取りまとめ。

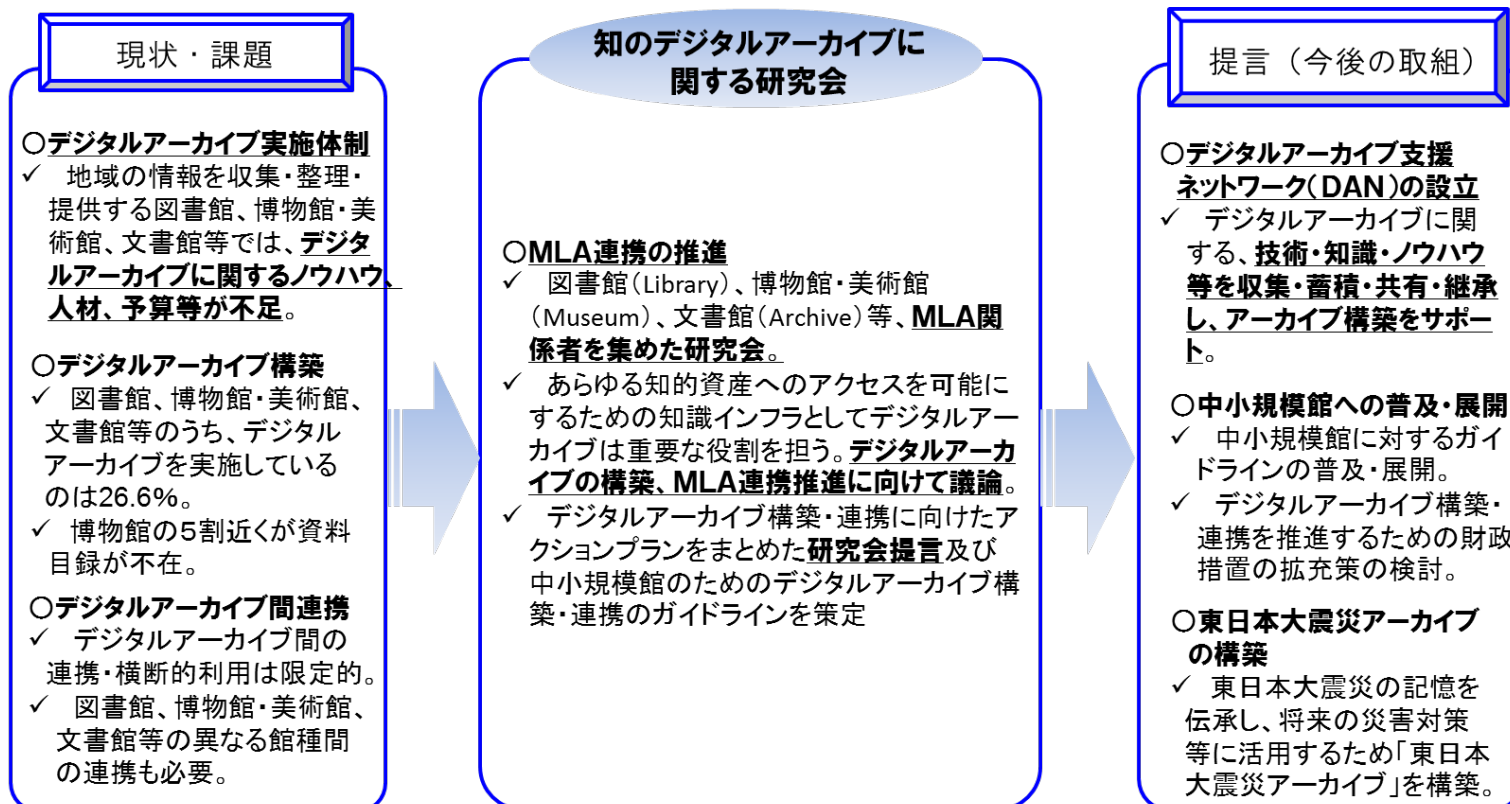


デジタルアーカイブ支援ネットワーク(DAN)ワークショップについて②

<知のデジタルアーカイブに関する研究会 提言>

- 「知のデジタルアーカイブに関する研究会」提言（平成24年3月）において、限られた人的資源の中でのサービス向上といった課題解決に向け、デジタルアーカイブに関する知識、技術、ノウハウに関する情報を共有することが重要と指摘。
- 具体的には、デジタルアーカイブの技術・知識・ノウハウ等を収集・蓄積し、MLA（Museum Library Archive）間で共有、継承するといった役割を担うデジタルアーカイブ支援ネットワーク（Digital Archive Network: DAN）によるデジタルアーカイブ構築の総合的な支援等の取組の推進を提言

「知のデジタルアーカイブに関する研究会」議論の概要



デジタルアーカイブ支援ネットワーク(DAN)ワークショップについて③

<デジタルアーカイブ支援ネットワーク(DAN)ワークショップ>

- 総務省では、「知のデジタルアーカイブに関する研究会」提言（平成24年3月）を踏まえ、デジタルアーカイブ支援ネットワークの構築を目指した**知識の共有、意見交換のためのワークショップを全国各地で7回開催**（筑波大学知的コミュニティ基盤研究センターとの共催）
- これまでに震災アーカイブの構築等に係る情報交換や震災記録のデジタルアーカイブによる地域の歴史・文化の記録の保存のほか、将来の災害対策への活用についても議論
- 直近では、平成27年11月に岩手県盛岡市で第7回DANワークショップを開催。

【これまでの実績】

	日時	場所
第1回	平成24年7月24日	札幌市中央図書館
第2回	平成25年3月14日	九州大学箱崎キャンパス 附属図書館新館4階視聴覚ホール
第3回	平成25年8月30日	福島県郡山市郡山総合運動場 開成山野球場会議室
第4回	平成26年2月14日	琉球大学附属図書館
第5回	平成26年9月19日	岡山県立図書館
第6回	平成27年2月20日	東北大学災害科学国際研究所
第7回	平成27年11月27日	岩手県立図書館

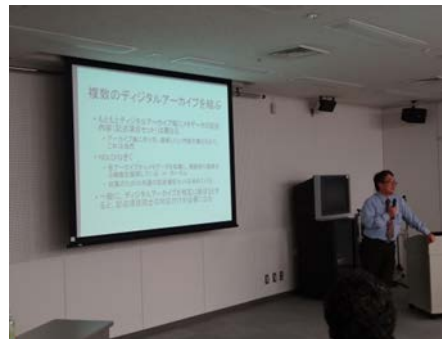
【主な参加者】

- ・地方自治体、MLA機関（美術館・博物館、図書館、公文書館）、地元ベンダー など

【DANワークショップ(第7回)プログラム】

- 「DANの目指すところ」（杉本筑波大大学院教授）
- 「総務省におけるデジタルアーカイブの取り組み」（総務省情報流通行政局情報流通振興課）
- 「震災アーカイブの岩手県の現状と他県と比較」（柴山東北大准教授）
- 「震災アーカイブ構想から「たがじょう見聞憶」が生まれるまで」（宮城県多賀城市総務部地域コミュニティ課）
- 「東日本大震災アーカイブのメタデータに関して～4アーカイブを解析してみた～」（永森筑波大講師）
- 全員参加による「車座」ワークショップ

【当日の様子】 講演風景



「車座」ワークショップ

